

保健福祉学専攻（博士課程前期）カリキュラムツリー（R7）

博士課程前期の修了生が身につけるべき資質・能力である以下のディプロマ・ポリシーを達成した学生に「修士（保健福祉学）」の学位を授与する。

1. 地域が抱える保健福祉サービスの課題に関連する背景を理解し，研究課題を明確にし，その課題を解明するための適切な研究手法を選択できます。
2. 科学的検証を通して得られた知見を実践現場に還元することができます。
3. 自らの経験を通して生涯にわたり自らの専門能力の開発に取り組むことができます。

修士論文

専 門 科 目	免疫学特論 公衆衛生活動特論 母性看護学特論 健康科学特論 地域保健学特論 地域包括ケア特論 がん・慢性看護学特論 生涯発達看護学特論 成人看護学特論 基礎看護学特論 精神看護学特論 ウィメンズヘルス看護学特論 地域保健学・実践看護学演習 地域保健学・実践看護学特別研究	内部障害リハビリテーション学特論 医療情報統計学特論 脳神経機能学特論 運動障害評価学特論 機能・形態障害治療学特論 筋・骨格系障害疼痛治療学特論 人体動態解析学特論 運動器・スポーツバイオメカニクス 特論 運動・栄養生理学特論 発達科学特論 医療ヘルスイノベーション特論 医療教育学特論 運動行動障害学演習 運動行動障害学特別研究	発達過程作業療法学特論 認知障害作業療法学特論 身体・老年期障害作業療法学特論 精神障害作業療法学特論 小児・発達期障害病態学特論 精神障害病態学特論 作業遂行学特論 作業遂行応用学特論 作業遂行障害学演習 作業遂行障害学特別研究	認知神経心理学特論 認知・言語機能障害学特論 認知科学特論 音声言語医学特論 発語リハビリテーション特論 摂食嚥下リハビリテーション学特論 拡大代替コミュニケーション特論 脳神経機能病態学特論 失語・高次脳機能障害学特論 オージオロジー学特論 コミュニケーション障害・脳科学演習 コミュニケーション障害・脳科学特別研究	臨床心理学特論 地域精神保健福祉学特論 公的扶助特論 障害者福祉論特論 臨床家族ソーシャルワーク特論 適応行動学特論 介護福祉学特論 ケアマネジメント特論 福祉政策特論 メンタルヘルス・ ソーシャルワーク特論 ヒューマン・サービス演習 ヒューマン・サービス特別研究
共 通 科 目	保健医療福祉研究法総論（必修）・統計解析学特論・質的調査法特論・アカデミックスキルズ リハビリテーション科学特論・保健医療福祉管理学特論・医療福祉倫理学特論・保健福祉専門職教育特論・作業科学特論 がん医療・エンドオブライフケア特論・地域医療福祉学特論・発達学特論・生体情報計測学特論・女性の健康支援論・高齢者医療福祉特論				
	地域保健学 実践看護学分野	運動行動障害学領域	作業遂行障害学領域	コミュニケーション障害 脳科学領域	ヒューマンサービス分野

学会発表・論文発表等

保健福祉学専攻（博士課程後期）カリキュラムツリー（R7）

博士課程後期の修了生が身につけるべき資質・能力である以下のディプロマ・ポリシーを達成した学生に「博士（保健福祉学）」の学位を授与する。

- 1. 地域が抱える保健福祉サービスの課題に対して，研究者として自立して科学的に実証することができます。
- 2. 実践現場のリーダーとして，科学的に実証された保健福祉サービスを現場に浸透させることや制度に反映させることを主導することができます。
- 3. 自身の専門能力の開発に加えて，多職種の教員が実施する科目を履修し，学際的に学修することで，幅広い学識を養い，多職種に対しても研究指導・実践指導などができ，保健福祉専門職の専門能力開発を促進することができます。

博士論文

専 門 選 択 科 目	がん・慢性実践開発看護学特論 小児実践開発看護学特論 成人実践開発看護学特論 地域健康疫学特論	疼痛制御学特論 脳神経障害学特論	老年作業療法科学特論 精神機能障害学特論 作業機能応用学特論	言語・認知情報処理特論 聴覚障害学特論 音声・嚥下障害学特論 発語障害学特論	家族支援研究法特論 適応行動心理学特論 地域包括ケア特論 社会福祉学特論
共 通 必 修 科 目	保健福祉学特別講義 保健福祉学特別演習Ⅰ 保健福祉学特別演習Ⅱ 保健福祉学特別演習Ⅲ				
	地域保健学 実践看護学分野	運動行動害学領域	作業遂行障害学領域	コミュニケーション障害 脳科学領域	ヒューマンサービス分野

1
・
2
・
3
年

学
会
発
表
・
論
文
発
表
等